

## 本の紹介 【囲碁文化と学校教育】

著者：坂じゅんいち 1,650 円 (税込) 発行 第三文明社

大阪府立高校教員時代を通じて、長年囲碁教育の普及に献身してきた著者が、囲碁を教育に導入する意義と、囲碁を通じた文化交流の未来を綴った内容です。大阪府でいち早く囲碁の授業が認められた経緯、カリキュラム・授業案の実際を説明しています。さらに、囲碁文化の発祥からその歴史を遡って考察し、その後の中国や韓国の囲碁教育の現状をレポートし、囲碁を通じた日中韓をはじめとする海外教育交流や囲碁学科の構想を示しています。

中国において伝統的に重要視された教養、いわゆる「琴棋書画」の考えの一部は日本の学校教育にも取り入れられています。「琴」とは音楽、「書」とは書道や読書、「画」とは美術工芸のことです。ですが「棋」が欠けていると著者は指摘します。初等教育では習字(書道)と算盤は取り入れられています。音楽については西洋音楽が、絵画については西洋美術が取り入れられているにも拘わらず、囲碁は全く忘れられています。「なぜ囲碁を学校教育に入れるべきか」の原点は、芸術、文化、教養として囲碁を捉えるという著者の視点にあるようです。



参考：「高等学校囲碁テキスト」は大阪府芸文連囲碁部会が編集し、囲碁の歴史に始まり、対局マナー、基礎知識、基本ルールなどを解説しています。

2023年1月13日 (大和田囲碁同好会 成田 滋)